

「北海道みらい日誌」募集結果等について

北海道みらいワーキング

1 概要

北海道 150 年事業の基本方針の検討にあたり、北海道の未来を担う若い世代から「北海道みらい日誌」と題した「北海道の未来への思い」についての作文を募集した。

- 募集テーマ：「生活・安心」「経済・産業」「人・地域」から1つ選択
- 募集期間：平成 28 年 6 月 11 日（土）～7 月 19 日（火）
- 応募資格：道内在住の満 15 歳以上 25 歳以下の方（H28.4.1 現在）

2 募集結果

(1) テーマ別

	生活・安心	経済・産業	人・地域	計
作品数	116	66	208	390

(2) 属性別

	高校	大学	社会人	計
学校・団体数	21	2	6	29
作品数	382	2	6	390

3 審査

北海道みらいワーキングのメンバー（委員、事務局）による 3 次に及ぶ審査を行った。

4 最優秀賞

	タイトル	氏名	学校・学年
生活・安心	顔を上げて…	なかがわ しょうま 中川 翔真さん	北海道札幌稲雲高校 1 年
経済・産業	将来の夢～私、農家になりたい～	つばい ことみ 坪井 古都未さん	北海道富良野緑峰高校 2 年
人・地域	武四郎の夢	やまぎし しほ 山岸 志穂さん	北海道札幌国際情報高校 2 年

5 北海道みらいワーキング委員からのコメント

■中川翔真さん 「顔を上げて…」に対して

○大津晶委員（小樽商科大学准教授）

広大な大地と固有の自然環境が、これまでもまたこれからも北海道の財産であることは議論をまたないが、成熟社会における地域の持続的成長のビジョンを描く上で、開発・開拓の対象として自然と向き合ってきたこれまでの“当たり前”を見直し、生活の不便さを前向きに受け入れることから始めたいという未来志向の北海道愛には、きっとひろく静かな共感を集めるものだと確信させるものでした。

○折茂武彦委員（(株)北海道バスケットボールクラブ代表取締役社長）

北海道愛を感じる作品だと思います。全国共通の物に流されるのではなく、北の大地と自然を誇りに何十年も北海道に住み続け、北海道から世界に情報発信してください。

○河崎秋子委員（作家）

スマホの小さな画面に見入っていないで広い北海道を見よう、という導入部がまず良かったです。画一的な全国チェーン店だけではなく地域性ある産業へ、そして自然と共存できる社会へ、という帰結も若々しさが感じられて好印象でした。筆者の方にはぜひこの素直で明るい気持ちを持ったまま、北海道を良くして行って頂きたいですね。

■坪井古都未さん 「将来の夢～私、農家になりたい～」に対して

○大津晶委員（小樽商科大学准教授）

各方面から産業6次化の可能性が語られ、その文脈で北海道農業の持つ強みや課題について議論が繰り返される一方で、その高度化されたバリューチェーンを支える人や具体的な働き方のイメージが示される機会が少ないなか、稼業の農家を継ぐことへのプライドと未来の北海道農家を担う高い志が、農業のみならずすべての産業に関わる道民へのエールとして小気味よく響くように感じられました。

○折茂武彦委員（(株)北海道バスケットボールクラブ代表取締役社長）

北海道の強み1次産業、そして6次産業化を誇りに思い、高い知識を身につけた農家として、立派に5代目として受け継いでください。

○津山睦委員（(一社)木古内公益振興社観光コンシェルジュ）

これからの北海道を担う力強いエネルギーを感じました。フィールドは違えど、同じ女性として頼もしく感じます。応援することはもちろん、一緒に頑張っていきたいです。

■山岸志穂さん 「武四郎の夢」に対して

○大津晶委員（小樽商科大学准教授）

異なる文化や価値観に対する不寛容がいびつなかたちで表出する現代社会において、北海道の若者たちが目指すべき地球市民（グローバルシチズン）のロールモデルを松浦武四郎の功績の中に再発見し、多様性への深い理解とわかり合えないことから始まる相互コミュニケーションへの覚悟こそがこれからの“道民シップ”なるものの基盤とすべきだという力強く清々しい宣言に心を打たれました。

○折茂武彦委員（(株)北海道バスケットボールクラブ代表取締役社長）

ご自身高い志を持ち世界に向けて羽ばたいてください。そして北海道の素晴らしさを世界の人々へアピールしてください。

○津山睦委員（(一社)木古内公益振興社観光コンシェルジュ）

松浦武四郎を通して北海道の成り立ちをよく理解し、未来に向かって一歩踏み出す前向きな作文でした。世界での活躍を応援していきたいと思います。